

六甲山でツツドリが繁殖か

江崎保男¹⁾・中条正英²⁾

The Oriental Cuckoo Probably Breeds in Mt. Rokko

Yasuo EZAKI¹⁾ and Masahide NAKAJO²⁾

Abstract

On 15 May 2004, we found a carcass of cuckoo species, probably depredated, in a forest on Mt. Rokko. We also found a fresh egg with the carcass. The cuckoo was identified as the Oriental Cuckoo *Cuculus saturatus* by the body size, color pattern of the tail feathers, and characteristic color pattern of the wing-edge. The egg was also identified as that of the Oriental Cuckoo by its size and shape. Although we did not find a nest parasitized by the Oriental Cuckoo, these facts strongly suggest that the Oriental Cuckoo breeds in the forests of Mt. Rokko, where it has been considered not to breed.

Key words : carcass, fresh egg, breeding, *Cuculus saturatus*

日本国内では、ジュウイチ *Cuculus fugax*、カッコウ *C. canorus*、ツツドリ *C. saturatus*、ホトトギス *C. poliocephalus*、の4種のカッコウ属の鳥が夏鳥として渡来し繁殖する(日本鳥学会, 2000)。兵庫県下では、これらすべての種が繁殖することが知られているが(江崎・和田, 2002)、南部の六甲山系では、ホトトギスが繁殖するだけで、他の3種は春秋の渡りの時期のみ観察されるにとどまる(日本野鳥の会兵庫県支部, 1996)。

2004年5月15日午前11時ごろ、著者らは六甲山系の東部に位置する芦屋市奥池地区(34°47'N, 135°18'E)でカッコウ類の死体を発見した。頭部・翼・尾羽と体羽を残して、他の部分は一切見られなかったので、外敵に襲われ捕食されたと考えられるが、同時に死体の羽毛にくるまれるように卵が1つ落ちているのが確認された(図1)。鳥類の卵殻は産み落とされる直前に完成するので(Campbell and Lack, 1985)、この鳥は、他の鳥の巣に托卵しようとする直前に捕食者に襲われ死亡したものであることになる。

この鳥の翼長は197mmあり、カッコウ類4種のうち、もっとも小型のホトトギスではない(樋口ほか, 1997)。また、他の3種のうち、ジュウイチは特異な尾羽の模様を

もっており、これとも明らかに異なる(笹川, 2001)。

残るは、カッコウとツツドリの2種ということになる。この2種の識別は形態的にはかなり困難である。しかし、樋口(1985)によれば、翼縁で見分けることができる。ツツドリでは翼縁に細長く白い部分があり、カッコウではこの部分に横縞がある。問題の死体の翼縁には明瞭な細長く白い部分があり(図2)、この点でこの死体はツツドリであったことになる。ちなみに、Tojo *et al.* (2002)がツツドリのヒナの特徴として指摘した口内の黒斑は問題の死体には見出せなかった。

さて、死体とともに発見された卵については、どうであろうか。兵庫県立人と自然の博物館所蔵のカッコウとツツドリの卵を並べてみたのが、図3である。カッコウの卵がツツドリよりも大きく、いわゆる卵型をしているのに対し、ツツドリの卵は小型で楕円形をしているという特徴が視覚的にみとれる。そして、問題の卵は大きさ・形ともに明らかにツツドリのものに似ている。このことは、卵の計測値によっても確認でき、問題の卵は明らかにツツドリの計測値の範囲内にある(表1)。

以上のことより、六甲山中の山林内で著者らが発見した死体はツツドリであり、そばに落ちていた卵はこの鳥

¹⁾ 兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境マネジメント研究部 〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目 Division of Environmental Management, Museum of Nature and Human Activities, Hyogo; Yayoigaoka 6, Sanda, 669-1546 Japan

*兼任: 兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目 Institute of Natural and Environmental Sciences, University of Hyogo; Yayoigaoka 6, Sanda, 669-1546 Japan

²⁾ 〒662-0866 兵庫県西宮市柳本町9-5-101 Yanagimotocho 9-5-101, Nishinomiya, 662-0866 Japan



図1 六甲山で発見されたカッコウ類の死体と卵。
Figure 1 The carcass and the egg found in a forest of Mt. Rokko.



図2 死体の翼縁。左上の横長の白斑はこの鳥がカッコウではなく、ツツドリであることを示している。
Figure 2 The wing-edge of the carcass. The long white spot at the left-side indicates that the bird is the Oriental Cuckoo rather than the Common Cuckoo.

がホストの巣の中に産み落とすべきものであったと考えられる。

今回の発見は、ツツドリがホストの巣に托卵したこと（繁殖行動をした）を示しているわけではないが、六甲山系でツツドリが繁殖していることを強く示唆している。なお、ツツドリの代表的なホストであるセンダイムシクイは六甲山系で繁殖している（日本野鳥の会兵庫県支部, 1996）。

謝 辞

山階鳥類研究所の浦野栄一郎博士には、カッコウとツツドリの識別について貴重な助言をいただいた。林今日子・伏原裕子・後藤順子の各氏には、写真撮影などでお世話になった。また、1名の匿名レフリーには原稿につい

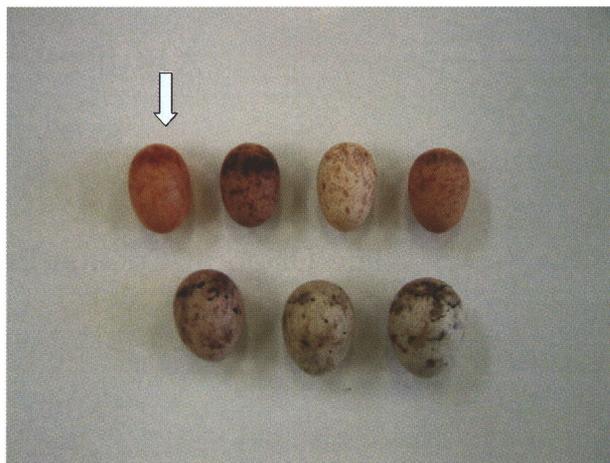


図3 ツツドリの卵（上段）とカッコウの卵（下段）の比較。左上（矢印）が六甲山で発見された卵であるが、明らかにツツドリの卵である。他は兵庫県立人と自然の博物館所蔵の卵標本である。
Figure 3 Comparison between eggs of the Oriental Cuckoo (top) and those of the Common Cuckoo (bottom) stored in Museum of Nature and Human Activities, Hyogo. The egg from Mt. Rokko (top left) is clearly resembles that of the Oriental Cuckoo.

表1 六甲山で発見されたカッコウ類の卵の大きさ (mm)。兵庫県立人と自然の博物館所蔵のツツドリ・カッコウと比較してある
Table 1 Size of the egg (mm) found at Mt. Rokko compared with those of the Oriental Cuckoo and of the Common Cuckoo stored in Museum of Nature and Human Activities, Hyogo.

| Egg of Mt. Rokko | Oriental Cuckoo | Common Cuckoo |
|------------------|-----------------|---------------|
| 六甲山の卵 | ツツドリの卵 | カッコウの卵 |
| 21.2 x 14.7 | 20.2 x 14.6 | 22.3 x 17.0 |
| | 21.5 x 14.3 | 22.8 x 17.8 |
| | 20.2 x 15.2 | 24.0 x 18.7 |

て貴重なコメントをいただいた。これらの方に厚くお礼申し上げる。

要 旨

2004年5月15日に六甲山中の山林で、捕食されたと思われるカッコウ類の死体を発見した。死体の体内にあったと思われる卵が1つ発見された。死体は、体の大きさ・尾羽の模様・翼縁の特徴からツツドリと同定された。また、卵についても、大きさ・形からツツドリのものと同定された。この発見はツツドリが他の鳥の巣に托卵したことを確認したものではないが、六甲山系で従来は繁殖しないとされてきたツツドリが実際には繁殖していることを強く示唆している。

文 献

- Campbell, B. and Lack, E. (1985) A Dictionary of Birds. T & AD Poyser, Calton, 670p.
- 江崎保男・和田 岳 (2002) 近畿地区鳥類レッドデータブック. 京都大学学術出版会, 京都, 225p.
- 樋口広芳 (1985) 赤い卵の謎. 思索社, 東京, 277p.
- 樋口広芳・森岡弘之・山岸 哲 (1997) 日本動物大百科第4巻鳥類 II. 平凡社, 東京, 180p.
- 日本鳥学会 (2000) 日本鳥類目録改定第6版. 日本鳥学会, 帯広, 345p.
- 日本野鳥の会兵庫県支部 (1996) 六甲山の野鳥. 神戸新聞総合出版センター, 神戸, 188p.
- 笹川昭雄 (2001) 改訂新版日本の野鳥羽根図鑑. 世界文化社, 東京, 399p.
- Tojo, H., Nakamura, S. and Higuchi, H. (2002) Gape patches in *Cuculus saturatus* nestlings. Ornith. Sci. 1: 145-149.

(2004年7月30日受付)

(2004年11月30日受理)